

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	静岡県下の社会教育活動における地域と学校の連携に関する実践的研究				
研究組織	代表者	所属・職名	食品栄養科学部・教授	氏名	角替 弘規
	研究分担者	所属・職名	静岡大学・名誉教授	氏名	馬居 正幸
		所属・職名	静岡産業大学・教授	氏名	松永 由弥子
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	食品栄養科学部・教授	氏名	角替 弘規

講演題目	「しずおか自主夜間教室」における社会的包摂の可能性
------	---------------------------

**研究の目的、成果及び今後の展望**

**【研究の目的】**  
 本研究の目的は、社会教育活動において地域と学校の連携がどのようにあるべきかについて、静岡県内の社会教育活動を踏まえつつ、社会教育活動の実践の中で社会的包摂の可能性を検証しつつ、その実践上の課題について検討することにある。

新型コロナウイルス感染症の拡大が継続する中、社会的分断が様々な形で露呈している。しかしながら経済活動の復興も急務とされるなかで露わになった社会的分断の中で取り残された人々に対する支援の動きも同時に引き続き継続される必要がある。その中で大きな役割を果たしうるのが社会教育の諸活動であろう。持続可能な社会を目指すためにも、あるいは学校教育をさまざまな形で補う意味においても、今後社会教育が果たす役割は非常に大きい。そうした社会教育の諸活動がより大きな役割を果たすためにも、学校教育との連携が尚一層必要とされる。一方で、社会教育の具体的な活動が社会的包摂の実現にどのように貢献するのかについて、改めて検証する必要があると思われる。

**【本研究の成果及び今後の展望】**  
 今回取り上げた「しずおか自主夜間教室」は2022年に取り組みが始まったNPOによる社会教育活動である。教室の対象は従来のいわゆる夜間中学校と同様、学齢期に十分な学習機会に恵まれなかった方、外国人、外国ルーツの子どもなど、様々な事情により学校教育から距離を持たざるを得なかった方々を中心とする。月2回の活動で小規模ではあるが学習者とスタッフが対話を通じながら少しずつ学習を行っている。その狙いは学習そのものよりも学習者とスタッフが社会的な関係を構築することにある。つまり、これまで何らかの形で社会から排除され、困難を抱えてきた学習者が、もう一度社会に対する信頼を得て社会的なつながりを作ってもらうことで、社会的包摂を実現しようとするところにある。学習を通して学力の向上を狙おうというよりも、むしろ学習を通じて友人や知り合いを作り、学習者が自分の抱えている問題を周りの人に開示し、それらに対して手助けができるような環境を作ろうとすることが主眼となっている。こうした狙いがどのような成果を生み出すのかは、まだこれからの活動の継続如何にかかっているが、こうした活動を継続するうえで今後解決が求められる課題としては以下のことが挙げられる。

一つには学習者のニーズの把握であり、二つ目には学習者の掘り起こし、三つ目には財政的なサポートである。こうした課題を抱えつつも活動を継続することで、より大きな社会的包摂の実現につながるものと考えられる。